

「僕らが、写真でできること。」

2011年3月11日から3年の月日が流れました。
被災地だけでなく、全世界が衝撃を受けたこの出来事は
僕自身、さまざまなことを考えるきっかけとなりました。

それまでの「写真」は人をあたたかな気持ちにさせるためのもの。
あの日を境に、この気持ちが一変しました。

写真の本質は、残すこと。
忠実に。

被災地の状況を目の前にしたときカメラを向けることを迷いました。
撮っても良いのだろうか、
撮ることに罪悪感を覚えました。

でも、月日は流れ
いま、僕が見た「3. 11」をここに
発表できることは大きな出来事です。

ひとつわかったこと。
無理に元気にさせよう、なんてしなくていい。
写真でみんなを笑顔にしよう、なんてしなくていい。
誠意を込めて写した写真は正直。
語りかけることができると思うんです。

「自然は人間が逆らうことのできないもの。
でも、その自然に癒しをもらっているのも人間なんだと思うんです。」

写真学科3年 武川健太